

## 平成 30 年度 第 2 回 知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【日時】平成 30 年 7 月 13 日（金）

午後 1 時 30 分～3 時 30 分

【会場】島田市川根文化センター

### 1 出席者

- ・ 発言者 島田市及び川根本町において様々な分野で活躍中の方  
6 名（男性 3 名、女性 3 名）
- ・ 傍聴者 140 人

### 2 発言意見

番号	分野・所属	項 目	頁
発言者 1	産業振興	地場産業や文化といった地域資源の活用	2
2	農業	茶産業の活性化	7
3	福祉	障害のある方への理解に関する啓発	12
4	地域振興	地域の空間や人材等を活かしたまちづくり	15
5	地域活動	自然環境を活かした交流人口の獲得	22
6	観光振興	自然環境を活かした観光振興	25
傍聴者 1	—	水資源の有効活用	32
2	—	貴重な木造校舎等の保存	33

【川勝知事】 どうも皆様、お暑うございます。お暑い中をお集まりいただきまして、誠に恐縮でございます。

西日本ではこの炎天下で行方不明者を捜す懸命な努力がされておりますが、私どもも常に地域の安全を第一に考えながら、一方で地域コミュニティの幸せと豊かな生活をつくり上げていくということを目指しているところであります。

この広聴会というのは、広く聴く会というふうに書かれているとおりでございまして、県政の報告をする場ではございませんで、こちらの方々のお話を承りまして、それを県政に生かしていくということなんです、いわゆる聞きっ放し、言いつ放しということはありませんので、この点だけは強く申し上げておきたいと思っております。

今日、皆さん方が何かしゃべられると、中には自分の活動を御紹介いただくのもありますけれども、中には御要請があつたりすることがあつて、私はそれに対して今答える準備があるものは答えますけれども、すぐに答えられないものも当然出てきます。その場合は持ち帰りまして、必ずお返事というか、どういう対策を講じるかということをお返事して、これまでやってきました。

つまり全て言われたことが無駄にならない形になっておりますので、ぜひ今日は島田並びに川根本町、この地域の発展に役に立つようなそういう御発言、皆様方もさまざまな御意見を聞いていただいて、それぞれのお仕事に、また生活に活かしていただければと思っております。

2時間ばかり、長い時間でございますけれども、お付き合いいただきますようによりしくお願い申し上げまして冒頭の挨拶といたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【発言者1】 皆さん、こんにちは。島田市から参りました発言者1と申します。今日このような会場でお話しさせていただく機会をいただき、大変光栄でございます。よろしくお願いいたします。

今日、なかなか上手くしゃべれないものですから、スクリーンを使って説明させていただきます。今スクリーンに出ていますのは、うちの会社の紹介なんですけれども、うちの会社は嘉永3年、旅籠登美屋として開業しました。当時は、今うちの会社がある隣は全部旅籠になっていまして、今旅籠を営んでいるところはもうないんですけれども、うちの先代は旅籠としての経営から始まりました。

明治になって東海道に蒸気機関車と、島田の中心地が発展したころ、今写真にある大正4年のときにはうちの4代目が旅籠経営から紳士服の製造、オーダーメイドの紳士服製造トミヤ洋服店を開業しました。この当時の写真、ちょっと見にくいかもしれませんがけれども、当時貴重であった自転車が置いてあります。これは先代が自慢して、この自転車を使って営業をしていたという形で聞いております。

この写真は、うちの方は紳士服を大正4年から製造していましたが、昭和になって地元の県立高校、あと市内の中学校等の学生服の製造というのに取りかかりました。紳士服で学んだ技術を生かして、地元の中学校、高校の制服製造に取りかかりを始めた。今現在は掛川市から静岡市までの小・中・高の学校の制服の方を製造販売しております。

平成27年にトミヤ洋服店として創業100周年を迎えることになりました。私8年前に家業を継ぐことを決め、現在に至っておりますが、現状として島田の商店街はシャッター街になっていて、なかなか今までお店を継ぐ人がいない状況です。そういった商店街はもうだめじゃないかという形で諦めの声を聞くことがありますが、まだまだ頑張れることがあるのではないかという形で、今一度、島田市のそういった歴史文化というものを見直すという形から考えました。

そのときに、この写真にあるように、島田だと島田帯祭りというお祭りがある。あと蓬萊橋を始め、文化的な資源がある。金谷の方には大井川鐵道もある。そういった産業資源があるという形で、ここから何か活かすものはないかという形で始めました。

私たちはそういったまちの地域資源というものを見直しながら、この島田大祭という帯祭りに着目しました。島田大祭は、御存じのとおり、3年に1度行うお祭りなんですけれども、このお祭りというものは、各町内のお祭りを守っていく形で今なっていますけれども、現状としてお祭り文化を継承していくということにも問題が生じております。

そういった歴史ある資源を何か物として表現をし、それを全国的に観光資源としてPRすることができないかという形で、1つずつ考えていきました。そのときに考えるに当たって、隣にありましたお店がシャッターで閉まっておりまして、まずはそこにお店を構えて、商品づくりをしていくという形を始めていきました。

写真にある帯祭りを通じて商品開発をしていく上で、今日幾つか紹介をさせていただきます。スライドにありますのは、「旅の晩酌セット」というものです。これは市内の商店街に古くから地酒をつくっている大村屋酒造さんがあります。この大村屋酒造さん

と何か地域資源を活かした商品づくりを1つ考えてみようという形で、ちょっと軽い気持ちでやったんですけれども、いろいろ商品をつくっていかうという形で2人で考え、そのときに市内のまちづくりを支援しているNPO法人クロスメディアさんと知り合う機会がありまして、その方たちと一緒に1つの商品をつくるという連携事業としてとらえました。

そのときお互いに地酒の持っている強みと、トミヤが持っている縫製技術の強みを生かした商品づくりで、島田のお土産をつくろうというテーマの元につくりました。

幾つかうちの方で商品開発を行っていた中で、平成22年2月11日に島田帯シャツというものを販売をしました。先ほど帯祭りの写真を見せましたけれども、帯祭りで使っている帯というものは、観光客の方に知られていないとか、帯というものはなぜ島田がそういうふうになったかということがなかなか伝えづらいということがあります。

そういったときに、島田の地域資源の観光である島田大祭というものを説明するに当たって、この帯シャツの説明とともに、島田のそういう歴史文化と一緒に説明をさせていただきながら販売をしていくという形で、島田帯シャツを通じて地域資源等の説明しております。トミヤではその縫製技術を生かして、この帯シャツを改良し、いろいろづくり始めました。

自分たちが、ただつくっただけでは普及等、開発に対して地域ブランド化していくのはなかなか難しいと思い、島田市内の商店街にある呉服店を初めとする商店さんといろいろ意見交換をし、その中で共同販売、共同的な形で、何か一緒にPR、販売ができないかという形で、島田帯シャツブランド協議会というものを発足させていただきました。

このときの島田帯シャツブランド協議会というものは、地域活性化をする島田の中の1つのブランドとして育てていきたいという形で設立して、その後、いろんなお茶を初めとする商品づくりがこのときから市内で活発に行われていましたので、その方たちとも連携をとりながら、島田市のそういう商品的な産業をPRすることが1つの団体というか、そういう協議会が集まれば、何かしらできるじゃないかと。帯シャツだけじゃなくて、いろんな産業さんとも意見交換をしながらやっていきたいという思いで、この協議会をつくらせていただきました。今は市内6店舗のお店の方たちと一緒にこの協議会の方を運営しながら日々頑張っております。

島田市役所もクールビズとして、市役所の職員を始め、信用金庫さんとか、職員が夏場のクールビズとして着ていただいております。島田市の市の花であるバラ、このバラ

の花、あと観光資源である蓬莱橋等をデザインした島田帯シャツもこのころから開発し、着用をするような形になっていきました。この写真にあるのは地元の信用金庫さんの窓口で着ている島田帯シャツになります。

このスライドは、今日県知事がいらっしゃいますけれども、静岡県で「ふじのくにシャツ」という形でブランド化の制度を知事がつくっていただいたものの紹介です。静岡県内に今「焼津魚河岸シャツ」、「大井川の恵シャツ」、「はままつシャツ」、あと「武襯衣(むしゃ) シャツ」といった地元で愛された地元のシャツというのがブランド化されました。その中の1つとして「島田帯シャツ」を認定していただくことができました。

このブランドシャツが皆さんの地元のシャツになりますけれども、それぞれブランドになっているシャツは、それぞれの地元愛に生かされたシャツの方になっております。島田帯シャツについては、帯を軸としたポイントでシャツをつくっていくという形でつくりました。

全国的に島田帯シャツという名前を普及をさせていくことで、島田大祭とか、そういう地域資源のお祭り等の文化を全国的に紹介できるように、今全国販売をするお店とか、そういうところと企画しながら帯シャツを島田市内のうちを始めとするところで縫製を行っております。

いろいろとうちの方で島田市の地域資源であるお祭りとか、そういう歴史文化などのものを使って、地域資源を活用した商品づくりを簡単に御紹介させていただきましたけれども、いろいろと島田市内の地域資源を見ていった上で、島田の中というのは本当に歴史文化遺産がいっぱいあるというふうに、考えていく上で思いました。そういったものを、ものとして表現するということが、なかなか難しいことも当然あります。今もいろいろと考えてくれて、商品づくりでそういうことを表現するという事は難しいなという形で思っています。

そんな中で、その地域資源という形の取組をもうちょっと何か活かすことができないかという形で、今年、経済産業省の地域産業資源活用事業という形で認定をいただくことができました。これは今島田帯シャツを初めとする縫製技術を生かした商品づくりを島田から発信していきたいという思いで、この資源活用計画を出しましたけれども、帯シャツ協議会としては、この島田市で新しい産業といいますか、縫製を皆さんでやれるような仕組みをつくっていきたくて。それがこの地域産業資源活用事業という制度を使って、地元から新たな雇用を生み出す、そういった技術と、島田市の歴史文化を活かし

た商品づくりで行う産業等を活用できるじゃないかと思い、この地域産業資源活用事業に申請し、いただくことができました。

今静岡県で一応地域産業資源活用プログラムというものが提起されていますが、ここでいろんな地域活性化のために、静岡県としてさまざまなお力添えをいただければと思います、今からちょっと御提案というか、そういうことを話をさせてもらいます。

1つ目は、静岡県にはうちを初めとする縫製業を経営する会社はたくさんあります。しかし、こういったふじのくにシャツを初めとする静岡県内の縫製業に取り組むのは、年々少子化が進み、静岡県内から製造販売をしているお店が激減しております。

先ほどうちの会社を紹介させていただきましたけれども、うちの本業である制服の製造販売も、他県からの大手メーカーが進出して、地元に着した製造販売をするお店が対抗することが難しく、厳しく、店をやめることになっております。このことから、地元に着したお店がなくなり、買い物難民になるような状況になっていると思われま

す。ふじのくにシャツなどの浜松の繊維産業の支援は進んでおりますが、静岡県内の縫製事業については、なかなか支援が行き届いていないと思われま

す。他県では繊維産業を支援していますが、ものづくりとして縫製業が海外へ移転されているというような状況が近年行われています。国内の縫製が見直されて、今需要が高まっております。そういった意味で、静岡県内には縫製・デザイン等をする専門学校、芸術大学もあります。そういった形で縫製関係の求人がないために、県外の縫製会社への就職をしなければならないというような状況が続いております。浜松の繊維産業と同時に、県内の縫製業等の人材育成と販路支援をお願いしたいと思

います。2つ目は、ふじのくにシャツの認定制度はありますが、まだまだ沖縄のかりゆしシャツまでの認知度にはなっておりません。静岡県ほど地元愛のある御当地シャツがあるのは全国的に珍しいと思

います。静岡県のふじのくにシャツの取り組みを全国へPR、販路拡大のために全国御当地シャツコンテスト&サミットなど、静岡県が先頭に立って進める企画を御検討いただきたいと思

いただきながら活動しております。地域や現場の実態を含め、地域の課題の解決を先導できるための確かな力が必要です。新たな課題が発生するのを防ぎ、地域の皆さんに寄り添いながら、共に社会の課題解決に向けて、NPO団体等の支援、タウンマネージャーなどの人材育成の支援をしていただきたいと思います。

最後に、もう1つ、4つ目の要望です。静岡県に中小企業地域産業資源活用プログラム等があります。これは先ほど地域産業資源活用事業の認定を今年いただきましたが、県内にはさまざまな市町村に地域資源の登録があります。今スライドにあるような地域資源が、農産物を始めとして登録されております。この地域資源の登録まで、厳しい条件を乗り越えて、何年もかかり、皆さんの努力のもと、この静岡県の地域産業資源の登録になっていると思います。この制度をもう一度活用できるように、静岡県として「しずおか食セレクション」のように、この地域資源の販路拡大と、この制度の見直しをしていただきたいと思います。

今日はうちの報告の説明をさせていただき、ありがとうございました。

**【発言者2】** 皆さん、こんにちは。お手元にパンフレットが届いていると思いますので、これを眺めながら話を聞いてください。

私は川根本町で小さな茶農家をしています。お茶の栽培製造はとても難しく、多くの機会に追究しがいがあるものです。しかし現在、お茶は大変厳しい状況で、高級茶産地の川根本町でも年々下がる荒茶価格、農家の高齢化、放棄茶園の増加など、問題が山積みです。私は自分のことが精一杯で、やってきたことしかわかりませんので、今日は私の茶農家におけるヒストリーとお茶への思いをお話しさせていただきます。

茶農家の長男に生まれた私は、県立農林短大茶業科を卒業し、二十歳で家を継ぎました。当時、我が家の茶園面積は1町3反、130アールでした。現在は品質を重視し、1町歩に減らしました。ほかの産地では3町歩、4町歩が当たり前ですが、急斜面の茶園の多い川根本町では、1町歩あれば大規模農家です。家の横に小さな製茶工場を持っていて、そこで荒茶に加工しています。

当時、できた荒茶は農協に出荷していましたが、昭和60年、1985年ごろの荒茶の価格は、現在の倍近くしていたと思います。しかし、私にとって決して納得できる値段ではありませんでした。また、品質より相場や収穫時期に価格が左右されてしまうのも疑

間を持ちました。山奥の川根本町では気温が低いため、新茶の収穫が遅くなり、品質が良くても安くなってしまいます。

何とかいい方法はないかと考えた結果、自分でつくったお茶を自分で値段をつけて、直接お客様に販売する、自園自製自販の経営形態、今で言う6次産業化、この結論に達しました。この販売方法なら相場に左右されず、自分の納得できる値段で販売できます。

2年目のときに、一番自信のあるお茶を100グラムずつ袋詰めし、高畑園という看板を掲げ、小売り販売を始めました。販売というより、知り合いにただ配っただけでしたが、何はどうぞあれ、これが川根茶高畑園の第一歩になりました。

しかし、始めて数年は全く売れませんでした。当時はバブル全盛期で、景気がいいにもかかわらず売れませんでした。知名度がないので仕方がなかったのですが、通販の仕方や、お金の回収の仕方など、わからないことだらけで、何から手をつけていいのかわからず、半ば諦めかけました。

また、当時は個人の茶農家が集まって共同で1つの大きな製茶工場を建てる事業が盛んでした。最新の製茶機械は驚くほど高く、小さな経営の個人工場ではとても購入できません。しかも、我が家の機械はとても古く、いつ壊れてもおかしくありませんでした。補助金で最新の製茶機械を導入することができる共同工場をとてもうらやましく思っていました。小売り販売に舵を切った以上、このまま個人工場で行くしかありませんでした。

何年か売れない、売れないとじたばたしていましたが、そのうち周りの人たちの協力により、少しずつ売れるようになりました。仕上げ加工してくださっているお茶屋さんがアドバイスをしてくださったり、役場に勤める友人が親身になって情報集めに協力してくれました。

また、結婚し、親戚が増えたことも販売にプラスになりました。妻と雑誌で全国の民宿や食堂などを調べ、新茶のサンプルを送ったりもしました。200通送ると1つか2つ注文が来ます。3年ほど続けましたが、詐欺に遭ったこともあり、やめました。

1991年に水出し煎茶のティーパックをつくりました。当時珍しかったため、大当たりし、年間300キロ以上売りました。調子に乗って、高級茶を使った紐付きティーパックをつくりましたが、これは売れませんでした。

2002年には自力でホームページをつくり、ネット販売を始めました。ネット注文は年々増えています。



2010年には、静岡県開催の「ふじのくに山のお茶100選」コンテスト出品茶「蒸さない 揉まない そのまんま茶葉」を開発し、好評を得ました。

また、お客様のニーズにあわせ栽培品種も増やし、5年前に新品種サンルージュを見つけました。サンルージュはブルーベリーなどに含まれるアントシアニンを含有するお茶で、急須で入れるとピンク色のお茶が出ます。ちなみに苗はやぶきたの5倍の価格でした。しかし、残念ながら川根本町の気候に合っていなかったようで、販売するに至らず、今年をもってやめることにしました。

このように失敗、成功を繰り返しながらも、楽しみながらチャレンジしてきました。そして少しずつ売り上げが増えていき、ほぼすべてのお茶を販売できるようになりました。最近はお茶が売れない、売れないと言われていますが、売り方次第ではまだまだ希望があります。いろいろなお茶を飲んでみたい、自分好みのお茶を探している、このような人はたくさんいます。こちらからお茶が選びやすくなる情報をもっと与える必要があります。

飲んで味を知ってもらうことも重要ですが、茶農家の努力を知ってほしいです。その情報は、大人たちだけでなく、これからの世代を生きていく子どもたちにも伝えていきたいのです。子どもたちに茶農家の気持ちと一緒にお茶を味わってもらう、それが本当においしいと感じたとき、好みは変わってきます。ぜひ茶農家の気持ちの届く情報発信を静岡県を挙げてしていただきたいと思います。

私の住む川根本町は日本一と言われる高級茶産地です。その名前を守ってきたのは、小さな個人工場の茶農家です。お互い切磋琢磨し、品評会で上位に入賞してきました。小さな機械でおいしいお茶をつくってきました。九州では絶対できない高品質のお茶が、川根の小さな農家の工場で作られています。

しかし、製茶機械は驚くほど高額です。良いお茶をつくるには、人の努力はもちろんですが、いろいろな資材、機械など、お金がかかります。幸いにも理解ある川根本町では、個人でも機械の購入に補助金が出るようになりました。大変ありがたいことです。しかしまだまだ簡単には購入できるものではありません。

川勝知事には、高級茶産地が生き残れるよう、小さな農家が生き残れるように、より一層努力していただきたいと思います。私たち小さな茶農家が、ほかにできない特徴あるお茶をつくることにより、消費に刺激を与え、茶業界全体が活性化するのではと思っています。以上、私のお茶への思いです。ありがとうございました。

【川勝知事】 発言者1さん、嘉永年間に旅籠屋で、大正4年に紳士服、1915年ですから、文字どおり100年の歴史があつて、この帯シャツをお召しになっておられて、あそこにも帯シャツが展示されておりますけれども、私が着ているのがサムライシャツです。

それで、どこが違うか。帯シャツは帯を使われていますね。これは扇子が入っているんですよ。扇子がすっと入るようになっています。そうすると扇子を使いますから、扇子を使ってセンスを上げるという。

これは議会でも使っていただけるように提案しましたところ、夏の制服で、ちょうど島田の市長と同じだということで、これは繊維産業を励ますためにやっていることです。

食の都とか、食セレクションだとか、新商品セレクションだとか、これは食の方ですが、これは何とか繊維産業全体を励ますために使わないといけないということですね。

サムライシャツを始めて、帯シャツもあるんですけども、ふじのくにシャツがなかなか広まらないんですよ。残念ながら3年前と比べて売上が落ちていますが、一人伸びているところがあるんですよ、帯シャツなんですよ。

昨年は400着ぐらい、今600着です。これはなかなかおしゃれですね。私も1着、市長さんから提供いただきまして、それで出ていきたいんですけども、議会へ出ていくとあまりに目立つんです、これと比べると。だから着にくいんです。

帯シャツは、これはかわいいしおしゃれですので、これを広めるということからやりたいなというふうに思っております。

値段も決して安くはないですけども、サムライシャツも高いんですよ。信じられないでしょう、そういうものなんですよ。そういうことで、まだ改良の余地があると思います。サミットを開くとかという御提案をいただきまして、とにかく静岡県下で使うということが、やっぱり1,000着以上の販売が毎年できると、それぐらいの実績をつくらないとならないと。繊維業界に対して、ここでも発言者1さんのような立派な方がいらして、協議会もできているようですから、これをしていきたいと。地域資源をきちっと制度として保証していくといういい御提言をいただきました。ありがとうございました。

それから、発言者2さんは泣けてくるような話ですね。私の資料によると53歳でいらっしゃる。二十歳のときに始められて、33年間、奮闘努力の甲斐もなしというのは寅さんですけども、奮闘努力の甲斐あつて、一番最初どうなるのかと思ったら、一応

つくっているものは全部売れているということで、成功し、また失敗して、こういうアップ&ダウンしながら、一生懸命やって、自分のところでつくって自分で売るというこのやり方でここまで来られた代表者ですね。高級茶というものに対する自信と誇りと、伝統を守っていくという使命感が伝わってまいりました。

ですから機械が必要だと。でもなかなか個人では買えない。場合によっては川根本町の近くの方たち同士で一緒に使えるような機械ができるのかどうか知らないんですけども、今日たまたま島田のいわゆる碾茶ですね、そこに見学に行ったんですけども、法人をつくられて、個人だけではできないような仕組みも考えていらっしゃるの、個人でできることの可能性を探るといって、何らかの共同で一緒に物を使うというふうなこともあわせて考えながら、今すぐどういことができるかどうか申し上げられませんが、とにかく川根のすばらしい川根茶を支えていくということだけは一貫して変わりませんので、改めて申し上げたく存じる次第であります。

ともかく今お茶はこの地域も世界農業遺産ですね。それから和食もユネスコの無形文化遺産になっております。おいしいお酒もありますでしょう。ですから和食とお酒とお茶というのはセットじゃないでしょうか。わさびも世界農業遺産になりました。ですから、これから和食が実はお茶の需要を喚起する。それからまたわさびが寿司の、また寿司がお茶の需要を喚起する。健康寿命が静岡県は世界トップでありますから、それがお茶によるということもお茶の機能について、この間亡くなられた榛村先生が本を監修して出されています。ですから確実にお茶は伸びていく。

ただし、地域間競争があります。産地間競争があって、碾茶については宇治になかなか勝てない。それからやぶきたについても、鹿児島との競争もあるということですが、競争相手がある方がいいと思います。したがって、うちの個性をどのようにして生かしていくか、競争に打ち勝つ、市場がだんだん大きくなりつつあるというふうには、いわゆる粗製濫造しないで、高い品質は高い価格で売れる、いや、高い品質のものは高い価格で売らんだというそういうつもりで、こちらのブランド化を御一緒に図っていきたい。

ちょっと一般的な感想しか言えなくて申しわけありませんけれども、いわゆるサラムイシャツとか、ふじのくにシャツ、これは縫製だけじゃなくて、まず我々の需要が使わなくちゃいけないということでもありますね。お茶については、これはもうできる限りのPRを含めて、さまざまな6次産業化の試みを我々もやっておりますので、成功事例を

いろいろなところに御紹介申し上げて、お茶農家を励ましていきたいというふうに思っているところがございます。いいお話をおふたりありがとうございました。

【発言者3】 金谷に住んでおります発言者3と申します。よろしく申し上げます。

うちは子どもが3人いまして、真ん中の子が、重度の障害のある子です。今スクリーンに写っている子はもっと小さい子で、私たちリアンの会という名前で活動しています。今年で7年目になりますが、リアンというのはフランス語で絆という意味です。市内の小中高校にみんなで子どもを連れて回って触れ合いをしてもらおうということで、まず知ってもらうことから始めたいということで続けています。

この写真は手話の歌をやっているところなんですけれども、この小さな子は声が出ません。声が出ないんですけども、そのかわり手話ができます。彼女と一緒にみんなで手話の歌をやろうというのをやっているところです。こんなふうに新聞記事に載ったりとか、紹介してもらうこともよくあります。

次に、この写真は「おびりあ」というこども館、遊ぶところがあるんですけども、その閉館時に特別開放をしてもらって、こども館と福祉課のバックアップで、このように障害のある子どもたちが安全に遊べるという機会を年に1回設けてもらっているものです。

そのときに周りには看護学校の生徒さんです。島田の看護学校の生徒さんがボランティアで、ほぼマンツーマンでついてくれて、これは私たちも看護学校の生徒さんと触れ合いたいというものがありましたし、看護学校としてもとてもいい機会になっているんじゃないかなと思っています。こども館、そして福祉課の方々に本当に毎年感謝しております。

模擬出前授業という形で少しやりたいなと思いますが、皆さん、体操がてら、やってもらいたいんですけども、一緒をお願いします。右手でグーを出してください。私は逆に左手でやっています。右手はグー、左手はパーです。パーは前で、グーが胸、できますね。変えますよ、パーが前で、グーが胸。大丈夫ですか。パーは前で、グーが胸。続けていきます。イチ、ニー、サン、早くなりますよ、ゴー、ロク、シチ。

変えますね。次です。右手がグー、左手パー、今度はグーが前で、パーが胸、グーが前でパーが胸。グーが前でパーが胸。グーが前で、パーが胸。イチ、ニ、サン、はい、ゴ、ロク、シチ、ハチ。難しいですよ。

どういうことかという、難しくてできないことは誰にもあるよということです。障害があるとか、障害がないということはあまり線を引かない方がいいんじゃないかなということを思ったりするんです。誰でも、どんなに頑張っても、できないことはできないということがありますよね。

ワークセンターの所長さんがすごくいい言葉を教えてくれたんですけれども、「私たちはみんな障害を持っているんだよ」と言ったんですよ。それは体は不自由とかそういうことじゃなくて、こう言ったんですよ。そのワークセンターでは知的障害の方たちが黙々と作業をしていました。その人たちのことで、「この子たちは心の健常者だよ」と言ったんですね。

健常だと僕たちは言っているけど、健常者は心に障害を持っているんだよって。それは人の悪口を言ったり、いじめてみたり、自分なんかだめだと思ったり、でも、この子たちを見ていて、この子たちはすごく純粋、心の健常者だよと言ったんですよ。はっとしました。あっ、私もしかして、この人たちに負けているかもしれないと。心が多分この人たちの方が上だななんて本当に思ったんですね。

という話を中学校とかですると、みんな下向いちやうんですね。感想文に僕は心の障害者にはなりたくないと思ったとか、書いてくれるんです。という話をしました。

スライドショーに戻ります。今出ているのは、バリアフリーてけてけ隊という障害者団体、うちは重度の障害があるリアンの会ですが、ほかにもいろんな団体があります。身体障害とか知的障害、精神障害、視覚障害、聴覚障害、さまざまな団体の代表の方が月に1回集まって、「島田市障がい者福祉連絡会」ということで定例会をやっています。

その中から出てきたアイデアで、年に1回お祭りみたいなことをやろうじゃないかということで、おび通りを使いまして、毎年4月の第4日曜日、商店街で元気市というのをやるんですけれども、元気市とコラボして、障害があってもなくてもおび通りを楽しもうということで、第4回がこの間できました。

この写真は車椅子の歌姫とっているんですけれども、とっても上手な女の子です。それとか、この子たちはダンスを披露してくれました。とっても楽しそうでよかったです。あと絵画、すごく一人一人個性豊かな、自分にしか描けない絵画を描くという、そういうのも披露してくれた人たちもいました。市長も毎年来てくれています。福祉課はもちろん全面バックアップしてくれています。

これは今年の集合写真なんですけど、ボランティア、出演者全員合わせて125人というとてもたくさんの方が自分からやるよということでボランティアで駆けつけてくれました。この写真を見ると、障害があってもなくて皆でこのイベントをつくろう、楽しもうということで、とてもいい雰囲気の中でやらせてもらうことができました。

スライドショーはここまでなんですけど、ここですみません、クイズを出したいと思います。クイズです、皆さん考えてください。皆さんは今、車椅子を押しています。街の中で下り坂に差し掛かりました。さて、どんなことに気をつけたらいいでしょうか。何でもいいです。答えは幾つかあるんですよ。（「スピード」）はい、スピードを出し過ぎてはいけません。

その前にまだあるんですよ。（「向きを変える」）向きを変える。どういうことわかりますか。こうやって行くと怖いときがあります。お話ができる方だったら、「前に行っていていいですか、向き変えますか」と聞いてください。もし「怖い怖い」と言ったら、後ろになってバックで下りるんです。

そうだ、私川勝知事に聞きたい。まだほかにもあるんですけど、知事、わかりますか。（「教えてください」）ちょっと考えてください。ヒントは、皆さん車乗るときに必ず何します？車乗るときに知事は何をされますか、乗ったらすぐに。（シートベルト？）はい、シートベルトなんです。

車椅子をちゃんと持ってられる人はいいいんですよ。もううちの子みたいに全然力が入らない人は、すごく不安です。だから必ずここにベルトが必要になってきます。それを本人さんが「いい、このままで」と言ったらいいんですけども、特に下り坂のときにベルトをせずに行っちゃって、途中で何かあって止まったときに、落っこちちゃいますから、必ずベルトをしています。

もう1つ大事な点があるんです。何かというのがここに書いてあります。今日、皆さんにお配りした冊子なんですけれども、これはもう私たちの血と汗と涙でできている冊子で、どういうものかという、もし障害のある方に会ったときに、どんなことに気をつけてサポートしたらいいのかというものが、障害別に全部書いてあります。車椅子に乗っている人は3ページに書いてあります。

3ページの絵を見ていただくと、さっき言った上り坂と下り坂が書いてあります。下り坂のところに、「ゆっくり前に進んでいます」とか書いてありますね。これすごく大事で、操縦している人は、どんどん行っちゃうんですよ。でも、操縦されている方は、

いや、今からどうなるんだろう、右に行くのか、下に行くのかって、すごく不安なんです。だから必ず声かけをしてもらいたいです。「右曲がりますよ、いいですか、ちょっとぼこぼこした道になりますよ」「段差ありますよ、ちょっと上がりますね」って、全部逐一実況中継してください。

私は子どもを車椅子に乗せるときに、必ず小っちゃい子でも全部伝えます。「ちょっと外暑いよ、大丈夫？」とか、すべてとにかく自分が感じたこと全部、そういう声かけがすごく大事ですね。

そういったことも出前授業で生徒さんに実際に車椅子を押してもらったり、階段を4人がかりで下ろしてもらったり、そういったことも出前授業でやっています。

この冊子は誰がつくったかという、難病の方がつくりました。筋肉が固まっていってしまう病気です。今首から上は動きますけれども、指先が若干動くくらいで、あとは動けません。彼女が座っているのもすごく大変な中、すべてこれをパソコンで入力してつくってくれたんです。いろんな障害種別によって、気をつけることがみんな違いますから、それは私たちのつくった福祉連絡会のメンバーが、自分だったらこういうところに気をつけないと困るということを出し合って、彼女がまとめくれました。

そういったものですから、うちに帰ってこれをチラシと一緒にぼいっと捨てないようにしてください。これすごく読み応えがあると思います。勉強になります。これからずっと使えると思います。

この間、熱海で聴覚障害の方の研修をやりようと思ったら断われたというニュースがありました。すごく私は悲しかったんです。これをもうちょっと県として本当にこれを勉強して下さっていたら、絶対違っていた。大丈夫、こういう手段があるよって、必ず何かしらやり方があるんです。なので、ぜひこれは皆さんよく読んでほしいなと思います。長くなりましたが、以上です。

**【発言者4】** 私は島田のまち中で生まれて、まち中で育って、まちでお店を営っていました発言者4と申します。よろしくお願ひします。

私は21歳のときに起業しまして、35年間、洋服のアパレルショップとか、カフェとか、雑貨屋とか、お菓子の製造販売とか、インターネットで洋服を販売したりとか、いろんな経営をしていたんですけども、3年前のちょうど7月29日に引退しまして、

それぞれのお店はそれぞれ若い人たちに経営権を譲渡しまして、私はまちづくりの方に足を踏み込んでみようかなということをはじめたのが3年前です。

駅周辺は、本当に生まれ育ったまちなんですけれども、空き店舗も空き地もすごく目立つようになって、それを使って賑わいを取り戻せないかなというふうに思って、常々ずっといたんですけれども、何かしら私の役に立つことがあるんじゃないかということで、まず第一歩目に始めたのは、このソライロビルです。

この写真は私の所有のビルなんですけれども、駅から歩いて目の前1分のところにあるんですけれども、1階は私が経営していた洋服屋さんを譲渡して営業をそのまま続けていたんですけれども、2階、3階、屋上は空いていたわけなんですよね。これを何か第一歩として利用して、うまいこと賑わいを持つことができないかということで始めたのが、これがそのビルの中です。

1階が営業していますので、2階へ上がっていくわけなんですけれども、こんな感じでいろんなイベントをトライしてやってみました。金曜日のパンとコーヒーというイベントでは、パンを焼く人を見つけてきて、毎週金曜日にパンを焼いて、ここで販売、そしてコーヒーというのは、いろんなコーヒー屋さんを週替わりで呼んで、1日ここでお店をやるということをやってみたところ、路面から見えない2階にもかかわらず、大体販売始めて1時間か2時間ぐらいで完売しちゃうという大盛況でした。

あともう1つは、駅前にお花屋さんがあるんですけれども、小っちゃなお花屋さんで、お教室をやることができないということで、この2階で大体いつも講習をやると40人ぐらい集まるんですけれども、市内市外から女性の方が集まってお花教室というのを開催したり、あとは早朝、出勤前、月曜日の朝に朝ヨガ講座というのをやりまして、皆さん仕事があるにもかかわらず、月曜日の朝にもかかわらず、朝7時から参加していただきました。

屋上もありますので、これ何か使えないかということで、いろんなイベントをやったんですけれども、一番人気だったのは、この外でやる満月のヨガというのなんですけれども、これも女性に好評で、満月を浴びてヨガをすると非常に女性は美しくなるということで、ここからだんだんデトックスの作用もあって、ここはすごく大事だということで、皆さん喜んで来ていただいていたいました。

その後、私たちが取り組んだのが、駅前に公園があるんですけれども、小っちゃな駅前緑地なんですけれども、ここも何も使われることがなかったので、すごいもったいな



いなと思っていて、ここを使って何かまちを元気にするイベントができないかという考え出したと同時に、ちょうどそのころ、このサンカク公園の前にある空き店舗のオーナーさんが協力的で、何かそういうことに使っていいよというふうに言ってくださったので、ここからまたスタートしました。

これはイメージ図なんですけれども、公園こんなふうに使ったら楽しくないですかというふうに皆さんに協力を仰いだところ、すごい賛同を得ることができまして、1回目のイベントをすることができたんですけれども、この際、すごく大事だと思ったのは、あくまでも自分だけが楽しめばいいとかというんじゃなくて、やはり近隣の周りの皆さんを巻き込んだイベントにしたいということで、もちろんお金もなかったんで、サンカク公園バンダナというのをつくったんですね。

この緑地帯に私たち「サンカク公園」という名前をつけまして、形状が三角だということと、あとはみんなで参画、参加して企てようという意味の参画なんですけれども、名前をつけて、愛称をつけて、皆さんに愛される公園になってほしいと思いついて、ここでサンカク公園バンダナというものをつくりまして、皆さんに買っていただいて、その収益でいろんなテントをつくったりですとか、整備をしたり、出店できるような環境をつくったりとかしました。

この写真がサンカク公園前の元スナックだったところをセルフリノベーションで、私も自分で壁を壊したりとかしながら、つくったお店なんですけれども、ここシェアキッチン「THE GROUND」という名前にしまして、いろんなお店を出したいけれども、ちょっとまだ勇気がないなという人たちのチャレンジショップとして、皆さんに使っていただける空間としてオープンしました。

そのほかにも、役所の方々がいろいろミーティングをやってくれたりとかですとか、お料理教室もやったりとか、たくさんの方が活躍する場所として利用してもらえればいいなというふうに始めました。

ここでもやっぱりパンのイベントをやったりですとか、レストランをやったりとか、お料理教室もやったりですとか、そんな感じのことをやってきました。

行政からの協力もいただきまして、最初の絵にあったようなテントをつくりたい、ベンチをつくりたいというふうに私が言ったところ、素敵なテントとベンチをつくっていただいて、第1回目のみんなのダイニングというイベントを開催して、大盛況をおさめました。

これがうわさのサンカク公園バンダナです。まだまだ 840 円で販売しておりますので、よろしかったら買ってください。

次の写真が、島田市からチャンスをいただき、イルミネーションをやらないかということで、私たちの方で提案させていただいて、採用していただいた「シマダテラス」というイルミネーションの企画です。普通のイルミネーションと私たちが考えるイルミネーションとどこが違うかということ、あくまで私たちはみんなに参加してもらい、参画してもらいということテーマに、島田ならではの「マチ・ヒト・コトを照らす」という意味の「シマダテラス」という名前でイルミネーションを始めました。

イメージはこんな感じなんですけれども、イルミネーションというと、よくLEDのちょっと白っぽい、青っぽい光のチカチカした、ついたり消えたり、ど派手な演出を思い浮かべる方が多いと思うんですけれども、私たちは島田ってそうじゃないので、島田ってもっと温かいよねということで、「お帰りの光」ということで、ガス灯の光をイメージしたオレンジゴールドみたいな色をほかにはないということで、特注してつくってもらって、全色、この温かいガス灯の色でまとめました。

いろんな企画があったんですけれども、今その真ん中辺りにやぐらみたいなものがあると思うんです、家みたいな、建物みたいな。その中ではスクリーンにいつも上映する設備があって、そこでは市民から集めた島田の 365 日の出来事をずっと放映していました。そのほかいろんなイベントで、島田の昔の写真を放映したりとか、島田のいい所の写真を持ち寄って、島田の写真家の愛好家の集まりの方に放映してもらったりとか、いろんなイベントをやったりして、島田ならではの温かい光を表現させていただきました。

この写真は駅前ですね、具体的にこんな形です。そのときにまたサンカク公園を使ったイベントとして、「みんなのダイニングヨル」ということで、夜のお店を出しました。このとき子どもたちにLEDでつくった風船を配ったりとかして、とにかくカラフル、チカチカではない島田ならではの温かい手づくりのイルミネーションを提案させていただいたつもりです。

そのほか、今年に入りましてからは「茶と禅」ということで、京都から禅の発祥のお寺である萬福寺から管長をお呼びして、島田も煎茶のまち、萬福寺も煎茶発祥の地ということで、ここで話しいただいてイベントをさせていただきました。

そのほか、「男の生け花 男のビストロ」ということで、この企画は「関係人口」と

いうキーワードでやったんですけれども、島田に住むのはできない、島田でお店をやることもできない、でも島田と関わりたいと思ってくださる方はすごいたくさんいることを発見し、この方もそうなんですけれども、お花屋さんで、東京で有名なお花屋さんなんですけれども、住所は焼津出身なんですけれども、もう実家がなくなってしまった。私とは知り合いだったんですけれども、静岡、島田に対して自分を育ててくれたまちとして何か恩返しをしたいということだったので、こちらでお花の会をやらせていただきました。お花とお料理の組み合わせなんですけど、こちらもやはり島田出身の料理人で、今静岡でお店で持っているんですけれども、やっぱり島田と関わることがしていきたいということで、こういう形でのイベントになりました。

今までやってきた私たちの活動というのは、1つは社会実験的なことが多かったと思うんですよ。あったらいいなという思い描く風景を短期間でもいいのでつくってみるという実験、風景をつくってみるという実験をやってきたつもりです。でもこれからは次のステップに移りたいというふうに私たちの方で考えておまして、仮設でも構わないので、初期投資を抑えて、暫定的に利用することで、その空間のポテンシャルをもうちょっと上げていく、探っていく、仮設でやってみるということを、暫定利用を挑戦していきたいと思っています。

まちをつくるから使いこなす時代へということで私たちのテーマにしているんですけれども、地域に潜在する人材や資源を発掘してマッチングする民間人のプロジェクトだと思っています。この地域に多様な活動で、次々にこういう活動を仕掛けていって、変化を生み出す場をつくるということを目指してやっていっています。ですので、これからはもう少し踏み込んだ形でのまちづくりというふうにやっていきたいと思っています。私たちがやるだけではなく、本当に皆さんを巻き込んで参加して関わって自分事にしてもらいたい。いかに公共を自分事にするかということを考えてこれからもやっていきたいと思っています。

先日、私の友達がストックホルムに行って、すごく印象的だったことをお話ししてくれていたんですけれども、まち中に大手チェーン店のコーヒー屋さんとか、本当にまちのおじいちゃん、おばあちゃんが経営するようなコーヒー屋さんもあるんですけれども、チェーン店は人ががらがら、まちのおじいちゃん、おばあちゃんが経営するコーヒーさんは満員というところを見てきたそうです。まちもそうありたいなというふうに思っています。

そのためには、やはりお店だけに閉じこもらずに、ちょっと外にはみ出した形での営業というのが、まちを元気にする1つの策ではないかなというふうに思っています。素敵な海外のまち並みというのは、道にはみ出してテーブルとか椅子とか置いてあって、お店とまちとの境界線がないのがすごく素敵だと思っているんですよ。だからそういう形での規制緩和とかができれば、もっともっとまちが賑やかで、良くなるんじゃないかなというふうに私は思っています。

これからもまちを元気にするべく、次のステップに入っていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【川勝知事】 大したものですね。感心して聞いていました。発言者3さんも発言者4さんも立派な人間であるというふうに感心して聞いていた次第です。

車椅子の件で幾つかどうするんですかと。もうほとんど答えられないですね。いかに知らなかったかということがよくわかりまして、軽率でありました。ありがとうございました。それから健常者と、いわゆる障害者と、完全な健常者も、完全な障害者もいない。皆その中間ぐらい。

その話を私初めて聞いたのは、ひげの殿下っていらっしゃいましたでしょう、寛仁親王殿下。ユニバーサルデザインの会議が静岡でありましたときに、寛仁親王殿下がお越しになりました。もうそのときには声帯が潰れていまして、したがって人工的な声しかお出しにならないですね。

そのお話の中で、完全な健常者、完全な身障者はいないと、皆その中間だと。また、どなたも怪我をしたり、あるいは年齢を重ねていくと、体に故障が出てきます。ですから、身障者になっていくわけですね。そうしたことも含めて、健常者と身障者の区別をしてはならないというお話をされまして、感心して聞いたのを覚えているんですけども、もうお亡くなりになって、本当に残念ですが、発言者3さんも同じお話でございまして、また障害者の方が知的障害、身体障害、いろいろな障害のある方がおられても、芸術の表現活動をされて、それも市長さんが応援されているというのも、いいお話でございました。

県の方も似たようなことをしております。個人的に私もしておりますけれども、市としてここまで先進的になさって、声かけ運動とか、我々もヘルプマークだとか、あるいは「障害を理由とする差別解消推進県民会議」を立ち上げたりして、200以上の団体が

関わってくださっていますけれども、とにかく健常者も身障者も同じようにコミュニティの構成員として幸福に生きるようにしていこうということをやっており、こういうパンフレットをつくっていますけれども、これくらい立派なものではなくて、これを大事にしたいというふうに思った次第でございます。ありがとうございます。

発言者4さんはすごいですね。さっき発言者2さんも二十歳で起業というか、お茶に携わったと。発言者4さんも21歳で起業したとおっしゃったでしょう。ですから普通の大学出た人は浪人すれば22か23か24でしょう。そこからどこに就職しようかぐらいのことから始めるんですが、二十歳になったときに起業して、そして今は成功してソライロのビルをお持ちで、プレゼンも上手ですよ。

それからサンカク広場というんですか、公園に参画する、男女協働参画、それに掛けるとか、それからあそこに「THE GRAND」という実験施設的な場所も提供して、いろいろなノウハウを学んでいながら自立していくということをされたり、賑わいの空間、しかも非常にロマンティックですね、温かいガス灯の色というようなことをお考えになったり、満月を浴びながらヨガをすとか、言うことないなという感じでありまして、こういう女性がいるまちはいいなというふうに思いますね。

これからこういう女性の能力を発揮していただけるように、我々というか、男性はサポートしていくというふうにしていきたいなと思ったところであります。どうでしょうか。とにかくこれでまちが賑わいを取り戻したり、皆が楽しく過ごしたりすると、これはいわゆる文化プログラムと言っているんですが、オリンピック・パラリンピックが2年後に参ります。そのときに文化プログラムを実施しているのは御存知でしょうか。

オリンピック憲章を見ますと、オリンピックというのは文化とスポーツの祭典なんです。しかしスポーツだけを我々は注目しがちですけれども、2012年のロンドンオリンピックのときに文化プログラムというのも一緒にやろうじゃないかということで、イギリス全土でそれぞれの市町が持っているらっしゃる文化プログラムを、つまりさっきやっていたらっしゃったようなことです。その中には例えば先ほどの島田大祭とか、帯祭りだとかみたいなそういうものを特別皆さんに見せることを全国でやったわけです。

その結果、オリンピックの年より、翌年の方がイギリスを訪れる人が多くなるということになりまして、それを知ったものですから、東京だけでやるのではなくて、日本全体で文化プログラムを展開しませんかと知事会に提案したら、もう皆それは大賛成で、そうした提案をするのは簡単ですけれども、どういうものをするかといったときに、や

っぱり地域にこういう文化プロデューサーといえますか、起業の理念、きちっと持ってなさっている方がいると、すごく強いですね。ですから、これから静岡県で文化プログラム、島田に注目しろというふうに言いたいぐらいですね。これは川根本町も一体ですから、そういうことなんですけれども、そういうように感じたお話でございました。感心しました。ありがとうございました。

【発言者5】 こんにちは、川根本町から来ました発言者5といえます。現在は川根本町で一般社団法人のエコティかわねというところに勤めております。どうぞよろしくお願い致します。

私自身はここにいるんですけれども、出身が鹿児島県です。4年前に緑のふるさと協力隊という制度を使いまして、御縁があった川根本町で1年間、町の農作業を手伝いながら、地域振興のお手伝いをしていました。今日はお時間がないので、そのときの活動については触れないんですけれども、私がつくった「まるごと川根本町」というホームページがあります。こちらを見ていただければ出てくると思いますので、よかったらどうぞみてください。

当時は、大学を休学していたので、協力隊として1年間過ごした後は大学に復学しました。卒業した後は、屋久島のNPOに就職したんですけれども、そこでもやっぱり川根本町のことをよく思い出していました。そしてやっぱり川根がいいなと思って、去年8月末にこちらに帰ってきて、今のお仕事には4月から勤めております。

今勤めているエコティかわねなんですけれども、仕事としては主にエコツーリズムを中心として、ユネスコエコパークのまちの発信をしたり、町民の方に啓発活動というのを行っていますし、今日皆さんにお配りしている『かわねっこ』という冊子も今制作しています、皆さんのお手元にあるのが、これが1号になります。

エコティとして、今年からは移住定住の相談を行ったりだとか、町の商工会との事業で「KAWANE PASSPORT（静岡川根パスポート）」という事業がありますけれども、こちらとの関わりもさせていただいています。

エコティの事務局は2人体制プラス代表理事の3人でやっているんですけれども、特にエコツーリズムの事業、皆さんのお手元にチラシがあると思うんですけれども、こういったイベントだったり、イベントなんかに関しましては、事務局で企画しているの？と聞かれるんですけれども、そうじゃないんですね。現在665名会員さんがいらっしゃ

るんですけれども、それぞれが買い物だったりとか、登山とか、昆虫や鳥に詳しいとか、さまざまな得意分野を持った会員さんがいます。会員さんが自分でイベントを企画して、事務局ではその広報や事務手続きを行っているという形です。みんなが仲間で、いろんな方の力を借りて、みんなが自分のやりたいことを実現できる場所を目指して、つながっていくことを大事にしている団体です。

つながるといふ点では、お隣にいる発言者6さん、さっき私初めてお会いしたんですけれども、エコツーリズム事業に関して、8月にわんぱくセミナーという小学生対象のイベントの中で一緒に企画もやらせてもらっています。

こんな活動をユネスコエコパークの町でやっているわけなんですけれども、実はこういったユネスコエコパークという言葉も、町の中では、あまり浸透してないかなと思っています。でも、これは私個人としては、世界遺産くらいすごいことじゃないかなと思っています。

世界遺産というのは、そこだけにしかない自然があつて、私がいた屋久島もそうなんですけれども、それを手つかずで守ることが目的なんですけれども、エコパークの登録地は、自然の価値はもちろん認められているんですけれども、そこに住む人たちが自然を守って、自然を利用して、人間と自然の持続可能な関係を築いていますよって認定された地域なんです。

なので、川根本町もエコパークと聞くと、お山の方ばかりがそうなのかなと思われがちなんですけれども、住民が住んでいる場所だったりとか、町全体がエコパークとして登録されているんだよということをもう少し住民の方に知ってほしいし、誇りに思っていたきたいと思っているので、これからも発信を続けていきたいなと思います。

南アルプスユネスコエコパークなんですけれども、ロゴがありまして、そこに住んでいる方々で趣旨に賛同していただける方は、申請すれば誰でも使えるそうなので、ぜひ利用していただきたいなと思います。

移住定住に関してなんですけれども、どのまちでも問題になっているかと思えますけれども、空き家が多いけれども、賃貸できる物件が少ないというのが課題ですね。私自身もこちらに来たときに、まず家が見つからなかったです。それで1カ月ぐらい知り合いになった方の家でルームシェアをさせていただく形をとっていました。

先ほど私が緑のふるさと協力隊だったよという話をしたんですけれども、川根本町にはこれまで7人、緑のふるさと協力隊として来た方がおりまして、北海道や愛媛や、私

は鹿児島だったんですけれども、いろんなところから来ているんですけれども、そのうち5人が移住して、今も住み続けています。とても定住率が高いと言えると思います。

私が協力隊だったときに比べて、川根本町の移住者はすごく増えていると実感しています。そしてまた農業をやりたいだとか、お店をやりたいだとか、すごく希望もさまざまです。今、川根本町では最長7泊8日まで無料でお試しで住むことができる施設がオープンしたので、少しずつ移住者の受け入れ体制をつくっているところなんですね。なので、そういったところも利用していただきたいですし、私も移住者として、移住したい方のお手伝いは少しずつでもできていけばいいかなと思っています。

最後に、こちらに越してきてからのことをお話したいと思います。本当によく聞かれるのが、「何でこの町に来たの?」とか、「この町のどこがいいの?」ということなんですね。でも、私この質問にはあまりうまく答えられたことがなくて、というのも、すごくいっぱい町のいいところがあるからなんです。

まず四季の移ろいをすごくちゃんと実感できるというのがあります。私、鹿児島出身なんですけれども、鹿児島は暑くて、夏が来たら、もう秋をすっ飛ばして冬に行くような、気温差が高いところです。それに比べて、ここでは本当に紅葉がすごくきれいだし、茶畑もすごくきれいな景色だったりとか、大井川が流れている景色、また雨が降ったときに、山や川に霧がかかる景色だったり、夜になると星空だったりとか、本当に素敵な場所がたくさんあるところです。

それから人ももちろん好きです。みんなが気さくに声をかけてくれるところですか、新参者の私にも、本当に孫や娘のように接してくれる方ばかりです。それに、さまざま得意分野を持っている方が住んでいて、皆さん一本筋はちゃんと通っているんですけれども、その中でやられる方がすごく多いなと思います。この人たちと一緒にいたいなとか、学びたいなと思うことが多くて、すごくすばらしい環境だなと思います。

それと最近思うようになったのが、ここにいる自分がすごく好きだなということです。川根にいと、本当に景色や人も含めて、元気やパワーをもらうことが多くて、自然に笑顔になることが多いです。日々に忙殺されているだけでは生まれてこないような状態かなと思って、それもここにいる自分が好きな理由だと思います。

このまちで働いて約1年になります。少しずつ仕事にも慣れてきたところなので、これからもっと川根のファンを増やして、川根にたくさん遊びに来たりとか、移住してき



たりする方を迎えて、皆がすばらしく輝ける場所をエコティかわねという場所を使ってつくっていただけたらと思います。

ここで自分が書いた原稿が終わったんですけれども、先ほど南アルプスエコパークの話をしました。だけど、川根本町はそれに登録される前からすばらしい言葉を持っています。これエコティのTシャツなんですけれども、ここに書いてある文字が英語であるんですけれども、これが「水と森の番人」という言葉なんです。まさにエコパークを象徴するような言葉が、認定される前からあったということになります。

それで川勝知事に提言するとか、そういうつもりは全くなかったんですけれども、昼食の際にお話をされていて、ちょっとお願いしたいなとか、思ったことが、大井川の水質検査をお願いしたいなと思っていて、大井川の水質検査は、私たちの仲間の間でも出た話なんですけれども、やっぱり私たちが水のことを何も知らないというのがあります。水が少なくなるよとか、多くなるよとか、今いろいろ言われているんですけれども、まず知らない、私たちがどうしたらいいかというのが全くわからないと思うんです。なので、まず水質を検査してみて、水が少なくなったらどんな生き物がいなくなるかとか、多くなったらどうなってしまうかとか、そういうことを知りたいなと思います。長くなりましたが、これで終わらせていただきます。ありがとうございます。

**【発言者6】** 川根でパラグライダーのスクールを開校させていただいています発言者6といたします。よろしく申し上げます。

なぜパラグライダーなのかということも含めまして、イメージが皆さんに伝わりますように、写真を後ろの方にスライドショーで流させていただきますので、こちらの方を御覧になってください。

この写真は、パラグライダーが飛び立つ離陸場になっています。ちょうど島田市の一番北の端になるんですけれども、この下が葛籠という集落になっておりまして、その上、海拔900メートルのところ、ちょうど4年前に森林が計画伐採されまして、その場所を利用して、地元の愛好家がパラグライダーで飛び始めた、それが最初になります。

パラグライダーの愛好者の方が、地元の葛籠の方や、周辺の地域の方と協力し合って、このパラグライダーの場所を整備していく中で、島田市の方から、この離陸場からの景色、また飛んで眼下に広がる、ちょうど皆さんも見えるところだと思いますが、川がグニャグニ

ヤと曲がっている、この地形が県の天然記念物に指定されている鵜山七曲りという特別な地形なんです。これがもうくっきり見える。

そしてパラグライダーをやっていると、まさに眼下に広がって見えるというこの景観を観光資源にならないかということで、だれかパラグライダーの事業ができる人がいないかということで私の方に声がかかり、愛媛の方から昨年5月にこちらの方に移り住みましてスクールを始めました。

パラグライダーというと、何かパラシュートのようなイメージがあるんですけども、実際はふわりと空中に漂っているような、決して肝を試すようなスカイダイビングでなくて、一般の人が、我々のようなインストラクターの前に乗っていただいて、ふわりとこの景色を安全に楽しむことができるものになっています。

どうでしょうか。これ、飛んで、鵜山の七曲りの上を飛ぶとこんなふうに見えます。よく最近、ドローンの映像とかって皆さんテレビで御覧になるかと思うんですけども、やっぱりテレビの中、または写真の映像と違って、実際に自分が空中に出ると、この眼下の景色が本当に体に感じながら、感動とともに見ることができる、それがすばらしい魅力の1つです。

この写真は自分をちょっと格好つけて撮ってみたんですけども、こんな感じで、足元に見えるのは笹間ダムですね。このようにダムなんかも青くきれいに光って、大井川の水も真っ青ですごくきれいです。このように見ることができます。

そして、僕なんかは愛媛から来たんですね。そうすると、この上空から見た景色ってすばらしい。遠くは富士山が見えまして、南の方は伊豆半島、駿河湾、御前崎も見えまして、ものすごく景観がいいところです。そして皆さんは多分毎日見られているのかもしれないんですけども、発言者2さんもやっていたらいるお茶園ですね。すばらしいきれいなお茶園が大井川の流域に広がっています。これは本当にオンリーワンのもので、僕もパラグライダーでいろんなところを飛ばしていただいたんですけども、これほどダイナミックな地形で、そしてお茶畑がきれいで、富士山が見えて、こんなすばらしいところはないと思っています。

そして、そこでパラグライダーのスクールというものをやっています。パラグライダーは1人で飛ぶためのライセンスを取るコースをやったりとか、または今写真に写っているとおり、お客様に前に乗っていただきまして、私が後ろに乗る。そして二人乗りのこういう体験飛行ができます。

こういうことで、この写真の方もカメラを持っていますけれども、皆さん、空中に出ると、その景色を喜んでいただいて、写真に撮りたくて、写真ばかり撮るものですから、「心のシャッターを押してください、カメラはいいですから」と言うぐらい、その景観に皆さん感動していただけます。お客様が感動していただけることを提供できるという仕事は素晴らしいなと思いつつ日々頑張っています。こんな感じですね。

お客様は子どもから年配のお客様まで、いろんな幅の人がやっていただいて、そしてここなんかは、ちょうど川根本町になるんですけれども、久野脇集落の上を飛ぶと、このように足元に茶園が見えまして、大井川にかかる吊り橋ですね、塩郷の吊り橋が見えたり、塩郷ダムが見えたり、そして北の方には雪をかぶっている南アルプスが見えたりします。

そして、この方にも体験していただきました。我らが島田市長も先月、やっと、いつも乗っていただきたいときに風が悪くて飛べなかったんですけれども、念願の一緒に私と飛ぶことができました。やはりすごくパラグライダーを応援してくれているんですけれども、実際飛ぶと子どものような顔になるんですね。もちろん普段もお若いし、気さくなんですけれども、空中で本当に感動していただいて、僕も楽しかったし、嬉しかったです。次は川勝知事にぜひお願いしたいなと思います。

このように足元に茶園が見えたり、ここなんかは葛籠という集落で足元に見えます。

そして、この写真は川根町の家山という集落で、夏に夏祭りを行っております。夜店市であったりとか、野守まつり、そのお祭りのときに、このように河川からエンジン付きのパラグライダーというのものもあるんですけれども、そういう二人乗りの体験なんかもやっております。皆さん、楽しんでいい笑顔ですね。

さて、そしてこのような形でパラグライダーの事業をやっているんですけれども、私にパラグライダーをここでやってほしいということで声をかけていただき、愛媛から移り住んできたんですけれども、最初は自分のパラグライダー事業を何とか成功させないと思って、1年がむしゃらにやってきましたが、その中でやっぱり地元の人たちの応援なしでは、ここまでできなかったですね。葛籠の人であったり、近くの塩郷、家山の皆さんに手伝っていただきながらここまで来ました。

一番強く感じたのは、やっぱり何か地域でやろうと思うと、地元の人たちの力なしでできないですね。皆さん、先ほどの発言者5さんも外から来たら、快く受け入れていただいたということがありましたけれども、僕らみたいなよそ者を快く受け入れてくれて、

一生懸命応援してくれる。それを何とか起爆剤にして地域を活性化したいというすごい強い思いを感じながらやっています。ですので、僕は愛媛県出身なんですけれども、川根が好きになって、川根愛が強くて、何とかこの川根を盛り上げていきたい、そんな何か別のモチベーションを元に、今は動いているような感じがします。

今、地元の自治体の方と鶴山森林公園というキャンプ場、公園を再開発しようという動きを、皆さん協力し合ってやっております。僕も少しながらお手伝いさせていただいているんですけれども、その場所を1つの観光の拠点として進めていきたい。そこにお客様が来る、そしてパラグライダーだけじゃなくて、大井川の水を利用したカヌーだったり、または、すぐもう大井川には山がありますね。その山には森林がある。その森林を整備するために、すごく入り組んだ林道があります。その林道からは、ところどころ七曲りのすばらしい景色が見えるんですよ。山を利用したレジャー、水を利用したレジャー、そして僕の得意とする空を利用したレジャー、3つのことが1つのその場所でコンパクトにできるようなものを構築していこうということで、アウトドアレジャーの格好よく言うと聖地になるような、そんなイメージで地元の人と頑張って進めていこうというふうに、パラグライダー以外のところにも強いモチベーションと熱意が出て、皆さんに応援してもらいながらやっているという状況です。

ですので、ここは川勝知事にお願いになりますけれども、やっぱり大井川の川というのは、外から来た我々にとってはすごく魅力なんですね。ですので、何とか大井川の自然環境、水の問題、いろいろあるかと思うんですけれども、自然環境を維持していただいて、観光資源としてもそこを活かせるような考え方というか進め方をお願いしたいと思います。

そして、最後は夢みたいなのを語らせていただくんなんですけれども、川根といえば、やっぱり茶園があって、その間をSLが走る、そういうイメージなんですけれども、そこから空を見上げると、パラグライダーが飛んでいる。川を見下ろすとカヌーがある。川の両サイドを見るとくねくねした道なんですけれども、自転車が気持ちよく走っている。そんな中、ユネスコエコパークという話もありましたけれども、自然をそこで体験、1カ所の場所でいろんなことができるようなアウトドアの聖地みたいなものになる、そんな観光の起爆剤になるようになっていけばいいなと思っておりますので、ぜひ県としても応援していただければと思います。以上です。ありがとうございました。

【川勝知事】 どうも発言者5さん、発言者6さん、ありがとうございました。

いやあ、発言者5さんの話を聞いていますと、何か自分が褒められているみたい、無茶苦茶嬉しいですね。鹿児島のお出身で、薩摩おごじょというか、向こうはお花が一番売れるところなんです。何か薩摩というと、薩摩隼人で男らしい。ところが誰が男らしくするかというと、お母さんなんです。ですから男の子がお母さんを喜ばすために男らしくないんですよ。ですから、お母さんが亡くなったりすると、もうお墓にお花が絶えません。ですから、お花が最もよく使われるのが鹿児島県なんです。

その鹿児島県、先ほど大学を出られて、発言者5さん、勤められたのが屋久島とおっしゃった。屋久島というのは、日本の世界自然遺産の一番最初の1つですよ。1993年に白神山地と屋久島とが世界自然遺産になりました。同じ年に法隆寺と姫路城が世界文化遺産になったわけですが、その屋久島は、世界自然遺産になってからは、実にたくさんの方が世界中からお越しになられています。屋久島というところは、実は九州で一番高い山があるんですよ。

九州で一番高い山は何となく阿蘇山だとか高千穂だとかと思いがちですけども、実は屋久島なんです。宮之浦岳というのがありまして、上にはしょっちゅう雨が降るんですよ。1、2月ごろになりますと雪になります。だから頂上は亜寒帯なんです。ところが周りは海ですよ、亜熱帯の北限なんです。だから亜熱帯から亜寒帯までが全部1つのところにあるということで、実に豊かな自然です。そこよりここがいいと言うんですよ。それが嬉しいじゃないですか。もう本当に涙が出るくらい嬉しいです。

そんなわけでございまして、発言者5さんに惚れられた川根本町はすごいなと。だから外から見ていただけというのが、初めて自分たちの価値がわかるということがあって、大井川をしっかりと調べろということでありますので、実はもうそのつもりで、もちろん今までもそういうことをしているんですけども、リニア新幹線との関係で、あそこに10キロにもわたってトンネルを掘るということでしょう。それが水脈とか、生態系だとか、流量だとか、いろんなことに影響することは疑いありませんので、学者の方を今選定しておりまして、この水の問題を、また山の問題を、地質の問題をトップクラスの方々に集まっていたいで議論していただくと、こういう段取りをしております。そういうことでちゃんとやりますからどうぞ御心配なく。

それから発言者6さんは愛媛、愛媛のパラグライダーとなれば、何しろ瀬戸内海という美しいところがあるわけですよ。四万十川というすごいところがあるんですね。それ

よりここがいいというんです。これまた嬉しい。そして、先ほど発言者5さんが南アルプスがエコパークになった、これは平成26年のことです。エコパークというのがございますけれども、人間と自然が調和して、実は本州の中で3,000メートル級のアルプス、北アルプス、中央アルプス、南アルプスとありますけれども、南風が一番最初に当たるのは南アルプスですよ。だから北アルプスなどは長く雪に閉ざされていますけれども、南アルプスは早くに雪解けがございまして、高山植物が高いところに、下までいろんな植物層があって、これほど多様なものは南アルプスを置いてほかにはないわけですね。

ここを川根本町と、それから静岡市の北の方と、それから山梨県に入りますと早川町とか、韮崎市、北杜市、南アルプス市、そして長野県に入りますと富士見町とかがあったりして、大鹿村とか、それから飯田市、10市町村が囲んでいるんですね。川根本町長さんはグリーンネックレス、エメラルドグリーンと言うじゃないですか。エメラルドネックレスだといって、私は応援隊長であると、エメラルドネックレス運動と一緒にやっております、あまり力がなくて、どうもすみません、応援隊長としてそういうことをなさっておられるんですが、南アルプスエコパークとして人類の財産です。

この南アルプスを皆さんが登ってみると、雪をかぶっている南アルプスが見えると。これエコパークでしょう。その向こうに富士山が見える、世界文化遺産でしょう。それからお茶畑、これは世界農業遺産でしょう。それから大井川は駿河湾に注いでいる。駿河湾は世界で最も美しい湾に認定されているのは御存じですか。「The MOST BEAUTIFUL BAYS in the world Club」というのがあって、理事長が来られたら、こんな美しい湾はほかにはないということで、富士山が見える、駿河湾、伊豆半島。伊豆半島は世界ジオパークでしょう。ですから全部世界クラスなんですよ。

だから、世界クラスの目を持った人を見ると、こんなところはないとおっしゃるんですね。何しろパラグライダーのワールドカップで世界一になった人ですよ、ブラジルで。その人がこんなすごいところはないとおっしゃる。さらに、聖地にしたいとおっしゃる、メッカに。それはパラグライダーの鳥の目で見たとときに、山、それから川、森、そして海、これ全部ある。川下りをカヌーでやったらどうか、SLが走っているではないか。それから大井川の川縁をサイクリングする。

サイクリングのこともちゃんと御存知でうれしいですよ。2年後にはオリンピック・パラリンピックがうちで行われますからね、聖火もうちは特別3日間走るわけですよ。そういうことでサイクリング静岡県、歴史上始まって以来オリンピックゲームの1つが

なされるという、そういうサイクリングを一生懸命応援しているんですが、サイクリングもちゃんと入れて、こういう空のレジャー、川のレジャー、森のレジャー、山のレジャー、こうしたものを聖地にできるとおっしゃった。やっぱり見る人が見ると違うんだなど。

この間、また情報発信するというので、川根本町にはゾーホーというインドの社長さんがいらして、その人は世界的な情報産業のトップなんです。ここに来て天国だと言うわけですよ。何でそれがわからないんだろうなおっしゃって、英語ですよ、何となくそんな感じで、社長なのにジーパン穿いていらっしゃるんですよ。それで気さくな人で、知事室に來られて話していて、あんないいところないと言うんです。

だから川根の高校生をおれは大学を持っているから連れておいでよと。そこでいろいろな技術を教えてあげると。場合によってはうちで働いてくれとまで。だから川根高校は40人ぐらいしかいないんですが、それが高校2年でも3年でも、全員行ったら十数人でしょう。全員行けるとは思いませんけれども、その数人でも一気に国際化するというふうに思っているんですけれども、ですからインドの目、鹿児島目、愛媛目で見ると、これでここに来た甲斐があったなと思えましたね。気持ちのいいお話をおふたりから聞いておりました。

本当に外から來られた方、実は皆さん、社会流出というのが問題になっているでしょう、静岡県はどんどん5,000人くらい出て、数年前は北海道に続いて静岡県から出た人の数が多いとか言われました。今は下から数えて8番目くらいなんですけれども、実はこの数年のうちに外国人の居住者が1,000人単位で増えているんですよ、毎年。そして今日の読売新聞にだけ出ていましたけれども、五千数百人流出したと、それ以上の外国人の方がこちらに住み始めた。だから純増だというんです。

それは、ここに来ると住みやすい、人が親切、食べ物もいい、都会にも行けるし、すばらしい自然もあるからというふうなことで、知らぬうちに何となく人々が住んでよしと思われつつあるわけですね。うちの若者は何も知らないから、東京の方がいいとか、名古屋がいいとか、ビルの森の中に行って、何がいいかと思うんですよ。そのうちに気がつくと思うんですけれども、気がついたときに、ちゃんと戻れるような環境だけつくっておこうと。だから私は30になったら静岡県と。

それから発言者2さんのところに、茶園がありますね。そこにエコトリップ、ぜひルートに入れていただいて、エコトリップとおっしゃったでしょう。必ず、あそこでおい

しいお茶をつくっておられるわけですから、それを買って帰るようにしていただいて、発言者2さんとおふたりが組んでいただいて、男女共同ペアで、こちらも二十歳のときから仕事を継いで、お茶の本当に御苦労されてきた方、最高級のお茶をつくっていらっしゃる。最高級の品質のものをできればもうちょっとたくさんつくりたいと思っていますけれども、そういうのをしていると。美しい自然に見せられておふたりが結びつく、これは鬼に金棒、二人三脚、期待したいところであります。

そうした相乗効果でいろんなものを結びつけて、さっき発言者4さんが「関係人口」と言われたのに気がつかれました？ 定着する人口とか、定住人口とか、交流人口ということがあります。今一番最先端の言葉が、人と関係する「関係人口」といいます。

これは必ずしも旅行で交流してここを通ったというんじゃなくて、元々島田御出身だとか、川根本町御出身で、何らかの形でここに関係している、あるいは仕事でちょっと関係した、そういう人たちが実はたくさんいらっしゃるんですよ。そういう人たちをとらまえて「関係人口」といいまして、そのネットワークでそれぞれの地域のよさを発信していこうと。

先ほどの料理と結びつけて、こちら御出身で、こちらには帰ってこれないけれども、島田を発信しようということで、こういうのを「関係人口」として、今、国でも注目しております。それを僕は国土審議会の委員だものですから、つい1カ月ほど前、その委員会に出まして、こういう言葉があるんだと思ったら、もう発言者4さん、使ってますからね、普通に。大したものだと、改めて思った次第でございます。

そういうわけで、発言者5さんと発言者6さん、これからも末永く島田、並びに川根、この大井川をあわせて愛してくださって、いろんなアイデアをいただきまして、我々の方も協力して、県も市町も協力して、お互い皆さんの夢の地域にしていければというふうに思います。本当にありがとうございました。

**【傍聴者1】** 掛川から来た傍聴者1といいますが、いろいろ県として地域振興の事業をなさっているということについては承知しているつもりなんですけれども、いろんな要望をしますと、往々にして予算的な制約で難しいというようなお話が出てくるわけなんです。

ところがこの地域というのは、ちょっと見ますと一目瞭然なんですけれども、水資源というのは、見渡す限りあり余っているんですね。こういうのを最大限開発して、それ



を倍にして加工していく。財源をつくりながら事業をしていくというような方法を目指したらどうかというふうに思うんですよ。

そうはいつでも、住民でやろうと思いますと、いろんな許認可とか、権利関係がいろいろ難しいものですから、なかなかできないという事情がありますので、土木関係とか、そういった点もなるべくクリアしていただいて、資金についてはPFIみたいな制度がありますから、そういうのを最大限活用して、地域の資源がお金にかわる。そして地域を整備していくための財源ができてくるというような対策がとれたらいいんじゃないかなというふうに日頃から思っていますけれども、ぜひ検討をお願いしたいと思います。

**【傍聴者2】** 川根本町の傍聴者2です。川根本町はユネスコエコパークに選定され、美しい村連合にも加盟しています。その基本理念は、川根本町の文化、暮らし、環境を守り育てていくということだろうと思っています。

その川根本町で今貴重な旧小学校木造校舎が取り壊されています。この木造校舎のすぐ横には、5年前、川勝知事の大英断で撤去を免れた吊り橋が今も残っています。また、玄関には皇室ゆかりの記念植樹、立派なヒマラヤスギが高くそびえています。

この木造校舎を日本の数多くの文化遺産、世界遺産の調査登録に携わってきている國學院大學の木村先生が詳しく現場調査され、文化財としての価値を十分に認め、川根本町の貴重な文化財として大いに活用すべきだと提言を受け、川根本町にはその旨伝え、木造校舎の保存と町民としての利活用を提案しましたが、残念ながら取り壊され、砂利で埋め立てられるようです。

以前にも、川根本町には古いレンガづくりの発電所が取り壊されたことがあり、今また貴重な校舎が壊されています。ユネスコエコパーク、美しい村連合の理念、文化や暮らし、環境を守る川根本町であるように、またこれ以上、文化を壊さない川根本町であるように、県には正しく指導されることを期待しています。以上です。

**【川勝知事】** どうも傍聴者1さん、ありがとうございます。地域資源は水がなくてはなりませんけれども、この大井川の水資源は、売電をするために発電をしていると思いますけれども、実は下流の方では農業用水という形で、農業用水として灌漑しているのは1万2,000haに及びます。つい最近、19年かけて700億円近くかけて、7,050haの灌漑が完了したばかりですね。

これまで、なけなしの水を1cmの高さを争うようなことが、ずっと数年前まであったわけですが、そうした農業用水を小水力発電として今幾つかのところで行われているんですね。大きなダムをつくる時代ではなかなかありませんで、そうした水資源を活用するというのは、残念ながらこの川根本町の方ではありませんけれども、下流の方で、あれは菊川かな、掛川かな、あちらの方でやっていますよ。

先ほど地域資源については、発言者1さんからもいろいろありましたように、いろいろ資源を生かしていくというのは基本的で、今おふたりはいわば観光資源にするとか、あるいはスポーツとか、資源としては本当に幾つもある。多くの人がお越しになれば、必然的にお金を落とすだけでいただけますからね。そういう資源の活かし方についての御提言の1つと受け止めて、基本的に考え方は賛成です。

それから傍聴者2さん、そうなんです。エコパークだけでなく、日本で最も美しい村に入っている、静岡県では松崎町とここ、松崎町は海で、伊豆半島の西海岸ですが、こちらは山里ということで最も美しい村ですから。校舎の件は知りませんでした。ですから、すみません。現場を知らないためで、ちょっと見せていただく機会があれば見せていただいて、それなりのちゃんとした理由がそれぞれにあると思いますけれども、傍聴者2さんのおっしゃったことはよくわかりました。おっしゃるとおりだと思います、考え方は。そういうことで、我々の方にもちゃんと理解が得られた上で、その後の処理を決めていくということにしましょうか。町長さんもいらっしゃいますので、よろしくこれから御検討をお願いいたします。以上でございます。